

平成24年度 文部科学省

「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」採択事業

産官学地域協働による人材育成の

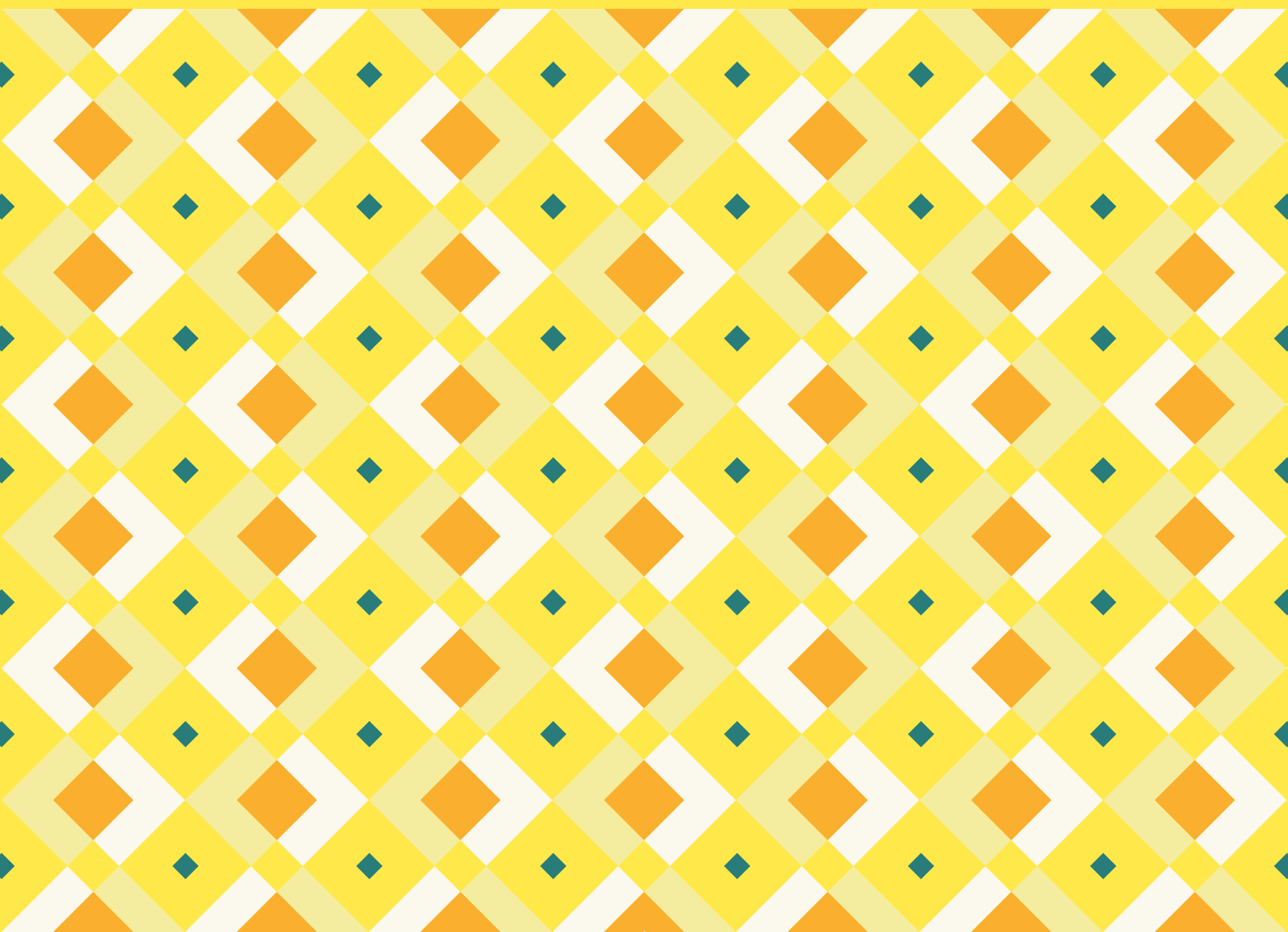
環境整備と教育の改善・充実

大阪音楽大学

大阪音楽大学短期大学部

平成25年度報告書

大阪音楽大学 大阪音楽大学短期大学部 日本語ライティング支援室



# 活動報告

本事業のための活動をご紹介します。



トークイベント 「音楽講師、あれこれ」	
6月26日(水)	北野真由子さん (ヴォーカル)
7月1日(月)	西本あいさん 森本純子さん (ピアノ)
11月29日(金)	中村春菜さん (電子オルガン)
12月10日(火)	角南麻里子さん (チェロ)

「音楽講師、あれこれ」と題したこのイベントでは、各講師の1週間のスケジュール、教材や指導案の作り方、どのように生徒のニーズを把握しているか、規模の大きな音楽教室と個人教室の違い、資格取得や面接についてなど、等身大のお話を聞くことができました。講演後には学生から多くの質問がなされ、卒業後の自分をリアルにイメージでき、きっかけが作れたようです。

## 社会と仕事を知る場です

### トークイベント「音楽講師、あれこれ」

昨年度、教員に対して行ったヒアリング調査では、「学生に対して、音楽で生活している人のロールモデルをもっと紹介してほしい」という要望がありました。学生の多くは音楽で生計を立てることを望んでいます。その具体的なロールモデルが少ないために、将来の準備をしないまま卒業を迎える者が多いことから出た意見でした。

そこで今年度は、学生にとって最も身近な「音楽の仕事」である音楽講師に着目し、ヴォーカル、ピアノ、電子オルガン、チェロの若手講師として活躍している卒業生を招いて、トークイベントを開催しました。ひとくちに音楽講師といっても、雇用形態、楽器や音楽のジャンル、生徒の年齢層などによって、働き方や求められる能力はさまざまです。

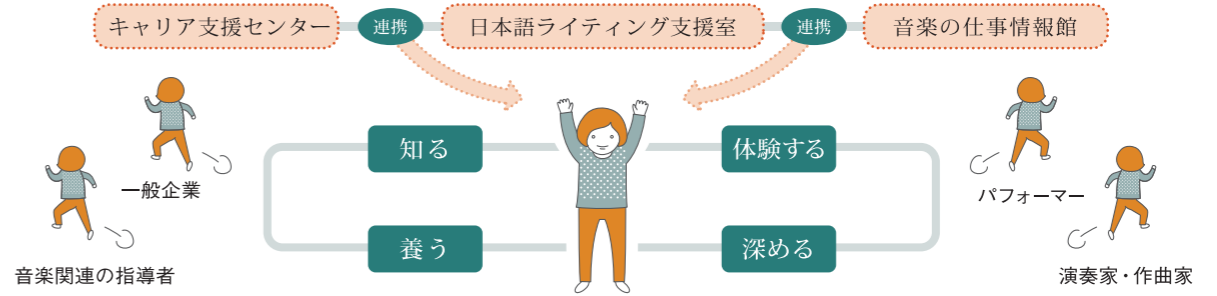
「音楽講師、あれこれ」と題したこのイベントでは、各講師の1週間のスケジュール、教材や指導案の作り方、どのように生徒のニーズを把握しているか、規模の大きな音楽教室と個人教室の違い、資格取得や面接についてなど、等身大のお話を聞くことができました。講演後には学生から多くの質問がなされ、卒業後の自分をリアルにイメージでき、きっかけが作れたようです。

## 企業の求める人材像調査

本連携事業の取組として、日本経済新聞社主催「企業の求める人材調査」に参加し、学生が自分の「人材力」を知る機会を作りました。参加者は45名。30分程度のWEBテストに回答することで、リーダーシップや課題発見力など、社会に出て仕事を必要とするさまざまな力を自分自身の持っているか、気付くことができるものとなります。自己分析を初めて経験するという学生も多く、診断後は日本語ライティング支援室で面談を行い、就職活動のエントリーシート作成などに活かせるようにしました。

# 事業趣旨

本学は、大阪、兵庫、和歌山の14大学の協働で「産官学地域協働による人材育成の環境整備と教育の改善・充実」事業に取り組んでいます。



## 平成25年度の取組

本学は、文部科学省より平成24年度「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」の採択を受け、3年間の事業計画のもと、大阪、兵庫、和歌山の14大学の協働で「産官学地域協働による人材育成の環境整備と教育の改善・充実」事業に取り組んでいます。音楽専門単科大学・短期大学部としての特色を活かしつつ、変動する社会の中で、学生が卒業後の進路をきちんと考え、自立していくことができるように、さまざまな就業力育成支援の取組を行っています。

事業2年目となる今年度は、学生が社会を「知る」「体験する」ことに重きを置き、取組を進めました。前年度に実施した教員へのヒアリング調査(平成24年度報告書掲載)をふまえ、音楽講師をしている卒業生を招いてトークイベントを実施するなど、学生が進路を具体的にイメージする機会を増やし、社会でどのような人材が求められているのか、積極的に考えていくよう促しました。また、音楽関連機関でのインターンシップ実習の充実や、音楽イベントの企画立案体験サポーター、名刺作成や敬語力の育成など、これまで行ってきた本学独自の取組をさらに充実させ、学生が学びを通じて次のステップに進んでいけるよう、支援を行いました。

## 日本語ライティング支援室について

本取組の中心を担う日本語ライティング支援室は、平成22年度に開室し、現在は教職員6名のスタッフで運営しています。教養教育部会のもとでキャリア教育に関連する授業を担当するほか、キャリア支援センターおよび音楽の仕事情報館と連携して、社会について学生が「知る」「体験する」「深める」「養う」という四つの視点から、本事業のための企画立案・実施を行っています。

教養教育部会では、音楽の専門的な知識や技術に加え、学生がこれからの「音楽人」として持つべき就業力として日本語を書く力・話す力を重視し、ライティングをもとにしたコミュニケーション力の育成を目指しています。「知る」「体験する」といった学びの中にもライティングを取り入れ、実習日誌やレポートを通じて経験を深めたり、自分の意見をきちんと相手に伝えたりするといった指導を行っています。



日本語ライティング支援室のHP  
<http://ongakutokotoba.com/>

本事業のHP  
<http://www.sneeds-kansai.jp/>

「産官学地域協働による人材育成の環境整備と教育の改善・充実」事業 連携大学

和歌山大学・大阪府立大学(幹事校)・兵庫県立大学・追手門学院大学・大阪音楽大学・大阪工業大学・大阪成蹊大学・関西外国語大学・摂南大学・帝塚山学院大学・芦屋大学・大手前大学・神戸学院大学・大阪音楽大学短期大学部

## インターンシップ実習

音楽の仕事を知る場として、主に音楽関連企業や団体に協力いただき、夏期と春期の2回、5日〜2週間程度の短期インターンシップを実施しています。参加者は毎年40名前後となっており、コンサートホールや音楽教室などでの就業体験を通じて、視野を広げ、進路について具体的に考えることができるプログラムです。キャリア支援センターの主導のもと、平成22年度から事前研修や事後報告会の充実をはかっており、今年度もエントリーシートや実習日誌の作成指導などを行いました。本事業の連携14大学による合同フォーラムでは、学生が「音楽の仕事を知る」私のインターンシップ実習体験」と題し、学んだことを発表する予定です。

合同フォーラム「みんなであつくり、明日の人材」  
インターンシップ・PBLグランプリ

平成26年3月10日(月)  
「発表者」松浦有沙さん(ピアノ専攻 3年生)  
「内容」音楽の仕事を知る「私のインターンシップ実習体験」  
株式会社ヤマハミュージックレティリング心齋橋店と大阪音楽大学付属音楽院での就業体験から学んだことを発表

自己表現のスキルを養いました

名刺講座・PV作成講座・敬語講座

日本語ライティング支援室では、キャリア支援センターや入試センターと連携し、授業外の講座を開催しています。今年度は、名刺講座、PV作成講座、キャンパス・コンシェルジュのための敬語講座を行いました。

名刺講座は昼休みの30分を使い、音楽活動用や就職活動用など、各自の活動にあわせてオリジナルの名刺を作成するものです。今年度は11回実施しました。

PV作成講座では、ビジュアルアーツ専門学校大阪講師の三丸聡さんをお招きし、PV（プロモーション・ビデオ）の撮影や編集方法を学びます。自分の音楽や演奏する姿を魅力的に伝える方法を知り、社会に発信する力をつけることを目的としており、講座では学生自身が撮影・編集を行って、2〜3分のPVを作り上げます。今年度は前期に3回連続講座を、後期に4回連続講座を開講しました。

敬語講座は入試センターと協働で、キャンパス・コンシェルジュ40名あまりを対象に実施しました。キャンパス・コンシェルジュとは、オープンキャンパスなどの大学行事で補助を務め、大学の魅力を伝える学生スタッフのことです。単なる丸暗記の敬語ではなく、お客様に対して臨機応変に情報を伝える力が求められます。講座では道案内など現実的な場面を設定し、ロールプレイを通じてふさわしい敬語を考え、話す練習を行いました。成果は「キャンパス・コンシェルジュのための敬語集」としてまとめ、次年度以降も育てていく予定です。



↑PV作成講座



↑名刺講座



学生の感想 キャンパス・コンシェルジュ

元から人と接することが得意だったので、キャンパス・コンシェルジュでそれを活かしたいと思っていました。講座に参加してみて、敬語は聞くだけでは身につかないことがわかったので、今後積極的に敬語を使うようにしたいと思います。

個別相談を受け付けています

上記講座のほか、日本語ライティング支援室では、さまざまな文書の作成方法について、個別相談を受け付けています。今年度は、平成25年4月〜平成26年2月で132件の相談を受け付けました。音大生にとって、文書作成が必要となる場面は多岐に渡ります。授業で課されたレポート作成はもちろんのこと、演奏会を開催する際には企画書、ホール使用申込書、予算書などの書類のほか、チラシ、プログラム冊子、アンケートなどの作成が必要となります。招待状やお礼状を送ることもあります。また就職活動を行う学生は、エントリーシートや履歴書、課題作文などを書く必要があります。日本語ライティング支援室では、各スタッフがそれぞれの得意分野を活かして、それらの相談をすべて受け付けています。今年度の特徴としては、一度相談に訪れた学生が後日別の文書についての相談に来る、あるいは日本語ライティング支援室の行う講座に参加するという広がりが多く見られました。これは、相談を通じて学生たちに、目の前の文書を仕上げるだけでなく、「表現する力を身につけたい」という意識の変化が生じているといえるのではないのでしょうか。

主な相談内容

- 授業・教育実習
  - ・授業レポート
  - ・教育実習レポート
  - ・教育実習のお礼状作成
- 音楽活動
  - ・プログラムノート作成
  - ・チラシ作成
  - ・案内状・お礼状作成
  - ・名刺作成
  - ・申請書類作成
  - ・企画書作成
- 就職活動・インターンシップ
  - ・エントリーシート
  - ・履歴書
  - ・小論文作成
  - ・手紙・メール作成

授業科目

日本語ライティング

音楽活動ポートフォリオ

本事業と関連する授業科目として、日本語ライティング支援室は平成24年度より、「日本語ライティングA・B」(大学)「日本語ライティング演習A・B」(短大)、「音楽活動ポートフォリオ入門・演習」(大学)「音楽活動ポートフォリオ作成A・B」(短大)を担当しています。

「日本語ライティング」は、報告書、レポート、紹介文、メール、企画書など、「音楽人」として社会に出るにあたって必要な文書の作り方を演習形式で学ぶ科目です。個別添削を繰り返し行い、書く前に材料をしっかりと集めているか、またきちんとした文章で自分の考えを明確に述べられているか、注意しつつ指導しました。

「音楽活動ポートフォリオ」は、美術大学などで取り入れられているポートフォリオ(作品集)作成の概念を取り入れた授業で、絵を描く、好きなものを自由にプレゼンテーションする、写真や絵画に音楽をつけるといった作業を通して自分の「作品」をいくつも作り、発表し合うことで、自己分析や自己表現の力を身につけていきます。受講者の中には「性格が明るくなった」と言われる者もあり、授業をきっかけにして、自分の考えを他者に伝えることに意欲的になっていく姿が見られます。

学生も参加する広報誌

日本語ライティング支援室では、平成23年度より、学内向け広報誌としてフリーマガジン『writing note』(B6判フルカラー、12〜16頁)を発行しています。本年度発行の第10号・第11号の主な記事は、左下の通りです。

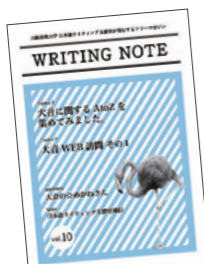
年度末発行の第11号では、4名の学生が記事作りの現場に参加し、企画や取材、編集、レイアウト作りなどを体験しています。雑誌作りの楽しさを知ってもらうだけでなく、日本語ライティング支援室を社会経験の場と捉え、学生でも責任を持って仕事を仕上げる体験をしてもらいたいと考えて、学生参加の取組を始めました。

記事の一つ一つについて「そこで何を伝えたいのか」を考え、ふさわしい文章やレイアウトデザインを細かく検討していくという作業は、学生にとって初めての作業です。著作権の扱いや固有名詞の正確な表記などについても、初めて注意されるという者がほとんどでした。取材相手にアポイントメントを取りついたり、原稿をやり取り

りしたりする際には、メールの書き方にも注意が必要です。さまざまなポイントで苦労しつつも、自らのアイデアを形にしていく過程を楽しみながら、学生たちは原稿作りを進めています。

次年度の課題

次年度もトークイベントや講座、フリーマガジン作成体験など、学生が視野を広げられるような体験の場を継続して作っていく予定です。学内で気軽に参加できることがメリットですが、告知や実施方法には改善の余地があり、より多くの学生が参加できるように工夫していきたいと考えています。また教職員への広報や、学内の他のイベントとの連携も課題です。本事業の最終年度となる次年度は、連携の中で学びのサイクルを意識させ、体験を応用したり、自分の力で調べて発展させたりできるように促すことで、参加した学生たちがより主体的に卒業後の進路を考えていくよう支援していきたいと考えています。



↑フリーマガジン [writing note] 10号の表紙と中面

『writing note』主な記事

- 第10号 平成25年7月
  - ・特集「大音のAtoZ」
  - ・大音WEB訪問
  - ・インタビュー「大音のめぐみさん」
  - ・日本語ライティング支援室通信
- 第11号 平成26年3月
  - ・特集「私の一冊 冬の本」
  - ・インタビュー「大音生のBookTalk」
  - ・ライティング講座「レポートの言葉づかい」
  - ・日本語ライティング支援室通信



↑学生によるフリーマガジン編集作業

学生に聞きました

声楽専攻 2年生 三谷晴佳さん



私は大阪音楽大学の学生リーダーをつとめたのですが、参加人数が多いので、集団の中でモチベーションの差が生まれてくるのが大変でした。全員が同じ方向を目指してやっていくためにはどうすればいいか、また情報共有の方法を考えることが今後の課題です。今年是有馬温泉の方々実際に話すことで、現実的なアドバイスをたくさんいただきました。他大学の学生にとっては当たり前ではない、という価値観の違いに苦労しました。でも、全員の共通テーマがあることで方向性を共有でき、各大学がそれぞれのやり方で目標を達成できたのはよかったです。

企業の方に聞きました

株式会社三ツ森 常務取締役 弓削次郎さん  
(一社)有馬温泉観光協会 企画広報部



有馬温泉ゆけむり大学は、有馬温泉の閑散期である9月に、若者の力を借りて若者向けのイベントをしたいと考え、始めました。今年で4年目になりますが、今年は特に4大学の学生間の連携が生まれたように感じます。学生が投げかけた疑問に対して、他大学の学生が答えるといった姿もよく見られました。音大の皆さんには、主に音楽面で関わっていただきましたが、「有馬温泉で演奏する」という意識を持ち、演奏する曲目を選び、有馬温泉の旅館や名産品のPRをMCに入れるなどの工夫が見えました。自分がしたい曲とお客さんが求める曲をすり合わせてプログラムを考える、有馬温泉で演奏することの意味を考えるなど、とてもよい経験になったのではないのでしょうか。



↑「有馬温泉ゆけむり大学2013」演奏会記録用紙



→右：いらっしやい☆ライブin有馬  
左：記録作成の様子

イベント本番中は、全員が「演奏会記録」(A4判2頁)を毎日記入しました。客数や選曲、選曲理由その日の反省点や次への課題などを記入し、スタッフに講評をもらうことで、自分を客観視し、目的意識を持ってイベントに取り組むことができました。学生からは「記録を書くことで、もつとお客さんに与える雰囲気や、ナレーションなども意識しなければいけない」ということに気付けた」といった声があり、書くことによって自分の体験をきちんと振り返ることができたようです。演奏会記録は平成23年度から始めた本学の取組で、ゆけむり大学以外にも、音楽の仕事情報館が提供するさまざまな学修イベントの場で使用しています。学生が演奏者・企画者として学外で仕事体験をした際に、自分の体験を書いて伝えるよう促すことで、学びを深め、伝える力を養っていきたくて考えています。

演奏会記録

イベントであることがわかりやすいようにしました。また椅子席を設け、音楽を聴いてもらいやすい雰囲気を作ることが提案されました。開催期間中は天候が崩れることもありましたが、事前の準備をふまえて臨機応変に機材を動かすなど、セッティングにおける現場対応力を身につけることができました。事前PRとしては、梅田や三宮でのチラシ配りのほか、近畿大学と連携して商業施設やライブハウスの告知イベントを行いました。学内の演奏会とは異なり、他大学の学生と議論しながらステージを作り上げる貴重な機会でしたが、「自分は演奏のみすればよい」「本番のみ関わればよい」と考える者もおり、リーダー会は全員のモチベーションを維持していく難しさを感じたようです。

イベント企画の立案・実施を体験しました

有馬温泉ゆけむり大学2013

本学は平成22年度より、(一社)有馬温泉観光協会、近畿大学、武庫川女子大学、神戸芸術工科大学と連携し、「有馬温泉ゆけむり大学」に参画しています。これは「つながり」をテーマに若者の力で有馬温泉を活性化させようと始めた取組です。大学生の視点で有馬温泉の魅力を考え、協力して地域振興のイベント企画を作り上げる中で、本学の学生は音楽で何ができるのか、実践的に学んでいきます。

今年度は35名が参加し、音楽の仕事情報館と日本ライティング支援室のサポートのもと、5月末の始動から10月の報告会まで活動に取り組みました。授業外の活動のため、当初は30分間の会議に全員が集まることも難しい状況でしたが、大学2〜3年生によるリーダー会が積極的に行動し、有馬温泉観光協会や他大学と連絡を取り合って企画をまとめることで、コミュニケーションの重要性なども学ぶことができました。

大阪音楽大学の主な活動

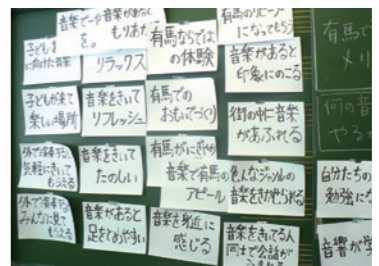
企画準備	
6月1日	全体オリエンテーション(有馬温泉観光協会)
6月~7月	企画会議
7月7日	企画中間発表(有馬温泉観光協会)
7月~8月	機材レクチャー、選曲発表会、のぼり作成
広報イベント	
7月~8月	ミント神戸(三宮) アサヒラボ・ガーデン(梅田) Live Bar D.III(阪急南方)
本番	
8月29日	いらっしやい☆ライブin有馬(金の湯足湯前)
~9月1日	炭酸ガーデン(三ツ森炭酸泉店)
ふり回り会	
9月17日~19日	ふり回り会
10月6日	全体報告会(有馬地域福祉センター)



↑いらっしやい☆ライブin有馬



↑企画会議



企画を立てる

本学の学生は「いらっしやい☆ライブin有馬」と「炭酸ガーデン」の二つの企画に携わりました。「いらっしやい☆ライブin有馬」は、有馬温泉の「金の湯足湯」前で行う路上ライブイベントです。観光客が多く、有馬温泉街の入り口ともいえる場所でのイベントを行うことで、ゆけむり大学全体を盛り上げる広報の役目をします。一方「炭酸ガーデン」は、有馬の路地の奥に作られた静かな喫茶店。生演奏をBGMにし、有馬名物のサイダーや炭酸せんべいなどを使った学生考案のスイーツを提供して、お客様に楽しんでもらうというものでした。メニューの決定、デザイン、接客演奏など、各大学がそれぞれの得意分野から力を出し合い、企画を作り上げました。

ステージ作り・広報活動

お店や路上で演奏するにあたり、空間演出も必要になりました。神戸芸術工科大学デザインによるTシャツに合せて本学の「のぼり」を製作し、大学連携のチャーター会などを計画し、音楽の仕事情報館スタッフから講習を受けました。どのような年代の方にも興味を持っていただけるように、昭和の名曲を現代風にカバーして演奏するというアイデアや、有馬名物を紹介したMCから関連する曲につなげるといったアイデアも生まれました。

お店や路上で演奏するにあたり、空間演出も必要になりました。神戸芸術工科大学デザインによるTシャツに合せて本学の「のぼり」を製作し、大学連携の

平成 26 年 3 月 25 日 発行

発 行 大阪音楽大学・大阪音楽大学短期大学部  
編 集 日本語ライティング支援室  
取組スタッフ 山下豊（事業取組担当者）  
高橋典子・増田隆子・増田祥子・中村聡・諸江和枝・山崎都世子  
お問い合わせ 〒561-8555 大阪府豊中市庄内幸町 1-1-8  
大阪音楽大学 日本語ライティング支援室  
06-6334-2709（直通）  
daion304@gmail.com  
<http://ongakutokotoba.com/>  
デ ザ イン ミルヒグラフィックス  
印刷・製本 Rand graphics